

テクノロジスト育成塾

第8回情報交換会

—— 「祈り」と「希望」 ——  
「開会のご挨拶」

平成24年3月14日

テクノロジストコンサルティング株式会社

代表取締役社長 テクノロジスト

黒岩 暎一

(・・・黙祷・・・「万の死」を悼む。)

皆様、今晚は・・・。テクノロジストの黒岩でございます。いつもお世話になり、ありがとうございます。本席をかりまして御礼申し上げます。

また本日は、期末、統合システムのリリース前などの大変ご多忙の時期にも関わらず、多数のご出席を頂きありがとうございます。

テクノロジスト育成塾は、2007年10月より第1期を開講、この3月までに78社、367名の卒業生を数えるまでになりました。

本会の趣旨は、「袖触れ合う縁をも活かす」、「次世代の人材育成」の情報交換の場ですが、東日本大震災の丁度1年後プラス3日後でありますので、第8回は特別に、「祈り」と「希望」を掲げた会にさせていただきます。

昨年の3月11日の大地震・大津波から、1年がたちましたが、テレビ等で伝えられたその時の広範囲にわたる現地の状況は、いつまでも目に焼きついています。

この未曾有の大災害の被災者のみなさまの長期間にわたるご辛苦はいかばかりかと心からお見舞い申し上げます。

首都圏でも浦安を中心とした液状化現象をはじめ、いろいろな被害がありました。

直接の被災地に親類・知己の方々がおられてご心配の日々を送られた方々も多かったと存じます。あわせてお見舞いを申し上げ、一日も早い復興がなされることを願ってやみません。

わたくし達がそれぞれ自分の問題として、故郷を失い遠方に避難を余儀なくされておられる皆様が平穏な毎日を取り戻されるよう力を集めることが一番大事なことと思います。

さらに、原発の事故は、完全な収束までに、予想もできないような時間がかかると思われますし、これは、日本だけではなく世界規模の重大な事案ということは、よくご存知のとおりです。

わたくし達はいま、おそらく日本の行き先をわがこととして考えるところにたっているのではないのでしょうか。

この時に、人材育成を通じての絆で結ばれ、ここにお集まりの皆様と、災害を受けられた方々への思いをあらたにし、小さくとも一致した力をお送りするとともに、これからの日本のあり方をどのように進めていくか考え、話し合うことは、とりわけ意義のあることと考えております。

2011年4月27日の日経新聞春秋欄にこんな紹介がありました。

○「さくらさくらさくらさくら万の死者」

—今週の日経俳壇にあった句が頭から離れない。

作者は岩手県大船渡市の桃心地さん。

すさまじい廃墟が広がる三陸の被災地からの投稿だ。

選者の黒田杏子（ももこ）さんは「国民的鎮魂歌」と評している。—

3月11日は間違いなく、わたくし達の自然観、人生観に決定的な変化をもたらしました。

本日の会は、「万の死」を悼むとともに前へ向って歩いていくための「希望」を抱く会であらねばと思ひ至りました。

京都市交響楽団コンサートマスターの泉原隆志氏に趣旨をお話しましたところご賛同を頂き本日の追悼演奏：「祈り」と「希望」の運びとなりました。

本日は、この会の演奏のために京都よりおこし頂いております。

そして、ピアノ伴奏は酒井雅代さんをお願いしております。

○なお、次回の第9回情報交換会は従来の形態に戻り、日産自動車の執行役員C I O 行徳 セルソ氏による特別講義を予定しております。

追悼演奏の後は、「万の死」への祈りを胸に抱いて、「希望」の気が充満するような時間になり、改めて、よいご縁を作られ、良い交流をしていただけますようお願い致します。私からのご挨拶とさせていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

以上